

臨床検体使用に関するお知らせ

『研究課題名 1型糖尿病患者における Sensor Augmented Pump (SAP)使用症例の検討』

【研究の背景および目的】

1型糖尿病の治療は強化インスリン療法が基本で、インスリン頻回注射か持続皮下インスリン注入(Continuous Subcutaneous Insulin Infusion : CSII)が行われます。わが国では2012年から皮下間質液中の糖濃度をモニターする持続血糖モニター(CGM : continuous glucose monitoring)が開始され、2015年からはCSIIにリアルタイムCGM機能を併せ持ったSensor Augmented Pump (SAP)が使用されています。2018年には低血糖時にインスリン注入を自動一時停止することのできる機能が新たに加わり、夜間重症低血糖を回避することができるようになりました。そこで、東邦大学医療センター大森病院 糖尿病・代謝・内分泌科では、SAP使用による治療成績を検討する目的で本研究を計画しました。

この研究で得られる成果により、1型糖尿病のSAP治療をより安全で効果的に行うことに繋がります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2017年～2019年までに東邦大学医療センター大森病院糖尿病・代謝・内分泌科において、SAPによる治療を受けた症例で、外来で施行している検査結果を教育・研究目的に使用することに同意を得られた全症例を対象とします。

SAPのサマリーと、診療録(カルテ)から抽出した診察所見を解析することにより、糖尿病治療に影響を与える因子を調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究において複数の関係者が一部企業との間には利益相反状態がありますが、規範に従って適切に対処されています。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理解剖結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】東邦大学医療センター大森病院 糖尿病・代謝・内分泌科

客員講師・池原佳世子 教授・弘世貴久

電話 03-3762-4151 内線 6565